

異体同心事

弘安二年八月 五八歳

白小袖一つ、あつわたの厚綿小袖、はわき房の伯耆びんぎに便宜驚目一貫、並びにうけ給はりぬ。
はわき房・佐渡さど房等の事、あつわらの熟原者どもの御心ざし、異体同心なれば万事を成じ、
同体異心なれば諸事叶ふ事なしと申す事は外典三千余巻に定まりて候。殷の紂王は七十
万騎なれども同体異心なればいくさにまけぬ。周の武王は八百人なれども異体同心な
ればかちぬ。一人の心なれども二つの心あれば、其の心たがいて成ずる事なし。百人千
人なれども一つ心なれば必ず事を成ず。日本国の人々は多人なれども、同体異心なれば
諸事成ぜん事かたし。日蓮が一類は異体同心なれば、人々すくなく候へども大事を成じ
て、一定法華經ひろまりなんと覚へ候。悪は多けれども一善にかつ事なし。譬へば多
くの火あつまれども一水には消き系ぬ。此の一門も又かくのごとし。

其上貴辺は、多年と歳積しつもりて奉公法華經にあつくをはする上、今度はいかにもす
ぐれて御心ざし見えさせ給ふよし人々も申し候。又かれらも申し候。一々に承りて日天
にも大神にも申し上げて候ぞ。

弘安二年八月